

公益社団法人 教育文化協会

2022 年度事業計画（2022 年 7 月 1 日～2023 年 6 月 30 日）

I. 基本的考え方

2022 年度事業計画は、公益社団法人としての事業目的を踏まえ、今求められている役割を果たすべく、すべての働く人を対象とした労働教育の充実に重点を置きながら、文化事業、出版・広報事業について着実に展開していくこととする。

教育事業は、「連合大学院」、「連合寄付講座」と「Rengo アカデミー・マスターコース」を 3 つの柱として実施し、今日的なニーズに対応するべくそれぞれ質的な充実に努める。

文化事業は、連合との共催による、「私の提言」と「連合・ILEC 幸せさがし文化展」の 2 つの募集事業を引き続き実施し、より多くの応募喚起に向けた広報活動・運営に取り組む。

出版・広報事業は、連合新書として、連合結成以降の労働運動についてわかりやすく記述する『ものがたり現代労働運動史 第Ⅲ巻』の発刊などを行う。広報事業では、ホームページへの「連合寄付講座」の講義要録や「私の提言」の入賞提言、「本と資料の紹介コーナー」での書評などの掲載等により、労働運動に役立つ情報提供の充実に努める。

なお、今後の教育文化協会設立の節目に向けて、教育事業を中心としたこれまでの蓄積を踏まえた記念事業の実施について、会員組織等と連携を図りつつ、検討を進めていくこととする。

また、人材育成に関しては、中長期的な視点から将来的に労働運動を担う人材を育成するため、連合がとりまとめた「総合的な人財戦略プログラム」の教育研修体系を踏まえ、連合や連合関係組織の教育活動・研修とも連携強化をはかることとする。

II. 事業計画の具体的な展開

1. 教育事業

(1) 連合大学院事業の運営

「連合大学院」は学校法人法政大学との連携のもと、主に社会人やこれから社会に出ようとする大学卒業生を対象とした、社会運動・労働運動の担い手を育成する大学院である。

具体的には法政大学大学院に正式なプログラムとして「連帯社会インスティ

テュート（通称：連合大学院）」を創設し、広く一般からの出願を募っている。

日本が直面する様々な社会的課題・問題の改革・解決に向け労働組合、労働者自主福祉事業団体、協同組合、NPO／NGO、社会的企業など公益を担う非営利組織・社会的経済セクターの果たすべき役割はますます大きくなっており、これら市民セクターを形成する多様な組織の有機的な連携と、その基盤となる人材の系統的な育成が求められている。

そのため連合大学院では、労働組合・協同組合・NPO／NGOの3つのプログラムを設置し、それぞれを学ぶ者同士が互いに他のプログラムの内容も学習しあう仕組みを導入している。それぞれの組織の強みや弱み、価値観や方法論を共有しあいながら、各組織を横断的に組み合わせた社会運動をコーディネートできる人材の育成を目指している。

①2023年度連合大学院の院生募集・推薦

- 1) 第9期生の募集に際し、関係団体と連携しつつPRの強化拡大に取り組む。
- 2) 法政大学院の「指定団体推薦入学」について、募集・取りまとめを行う。
- 3) 「指定団体推薦入学」の出願希望組織等向けに入学説明会を開催する。
- 4) 入学希望者に対して指定団体推薦を決定し、「指定団体推薦書」を発行する。

②院生のサポート

1) 奨学金制度

一般・社会人入試による院生（当協会推薦者以外の院生）を対象に奨学金を交付する。

2) 院生の研究サポート

院生が取り組む修士論文等の研究活動に対し、「個人や団体の紹介」「身分保証」「アンケートの依頼先紹介」等、必要なサポートを行う。

(2)「連合寄付講座」の運営

「連合寄付講座」は、これから社会に出る大学生に対して、働くということについて自ら考え、労働組合の役割や労働運動の意義について理解を深めてもらう目的で、大学の正規の授業科目として開講している。昨今の若年雇用を取り巻く厳しい状況のもと、働く側の視点に立って現場の課題や労働組合の対応について半年間（クォーター制の場合は3ヶ月間）にわたり様々な角度から学ぶことができる本講座は、生きたワークルール教育の実践の場としても重要であると考え、「地方連合会寄付講座」も含め、さらに拡充を図っていく。

教育文化協会が直接運営に関わる「連合寄付講座」は、計6大学で実施する。具体的な運営は、各大学の担当教員と連携を図りながら半期もしくは4半

期 13～15 回の講義プログラムを組み立て、各回の講義では、労働組合役員を中心としたゲストスピーカーを配置してオムニバス形式での講義を行う。

講義プログラムの作成にあたっては、学生アンケートなどこれまでの講座実施による蓄積を踏まえ、働くうえでの現代的な課題やワークルール、労働組合の実相について、大学生がより理解を深められる内容とするように努める。さらに、2019 年 4 月に作成した、寄付講座の受講生が講義を聞くうえでの参考となる補助教材（労働関係用語集等）については、さらなる充実を図るべく検討を進める。

今年度開講する寄付講座は以下のとおり。

① 同志社大学社会学部：「働くということ－現代の労働組合」

2022 年度春学期（2022 年 4 月～7 月）

2023 年度春学期（2023 年 4 月～7 月）

② 一橋大学社会学部：「現代労働組合論」

2022 年度春・夏学期（2022 年 4 月～7 月）

2023 年度春・夏学期（2023 年 4 月～7 月）

③ 中央大学経済学部：「働くということ－現代の労働組合」

2022 年度前期（2022 年 4 月～7 月）

2023 年度前期（2023 年 4 月～7 月）

④ 埼玉大学経済学部：「働くということと労働組合」

2022 年度第 4 ターム（2022 年 11 月～2023 年 2 月）

⑤ 法政大学キャリアデザイン学部：「働くということと労働組合」

2022 年度秋学期（2022 年 9 月～2023 年 1 月）

⑥ 東京工業大学大学院リーダーシップ教育課程：

「理工系学生のためのワークルール入門 I・II」

2022 年度秋学期（2022 年 10 月～2023 年 2 月）

(3) 「地方連合会寄付講座」開設の促進

地方連合会が主体となって運営する「地方連合会寄付講座」は、計 18 大学で実施される。2021 年度には、新規開設はなかったものの、前年度にコロナ禍で中止せざるを得なかった寄付講座も再開している。

既に開講している地方連合会寄付講座については、引き続き財政面、運営面で支援・協力する。

また、未開設地方ブロックを中心としたさらなる新規開設に向け、連合本部、当該地方ブロックおよび地方連合会と情報交換などを通じ、積極的に連携をはかる。

<2022 年度前期開講中>

- ① 連合岩手寄付講座（岩手大学人文社会科学部）
「現代の諸問題－労働問題とワークルール」
- ② 連合福井寄付講座（福井県立大学経済学部）
「ケーススタディで学ぶ仕事の現場」
- ③ 連合滋賀寄付講座（滋賀大学経済学部）
「現代の経済（働くこととワークルール）」
- ④ 連合京都寄付講座（京都女子大学博物館学芸員課程／連携活動科目）
「働く女性のための基礎講座」
- ⑤ 連合福岡寄付講座（九州大学法学部）
「ワークルールとキャリアデザイン」
- ⑥ 連合長崎寄付講座（長崎大学経済学部）
「現代の労働と労働組合」
- ⑦ 連合大分寄付講座（大分大学経済学部）
「働くということと労働組合」

<2022 年度後期>

- ① 連合山形寄付講座（山形大学人文社会科学部）
「労働と生活」
- ② 連合神奈川寄付講座（関東学院大学経済学部）
「働き方と労働組合」
- ③ 連合愛知寄付講座（愛知県立大学）
「学ぶということ 働くということ」
- ④ 連合三重提供講座（三重大学人文学部）
「働くということと労働組合」
- ⑤ 連合石川寄付講座（金沢大学人間社会学域）
「働くことと労働組合」
- ⑥ 連合奈良寄付講座（奈良県立大学地域創造学部）
「働くこととワークルール」
- ⑦ 連合広島寄付講座（広島修道大学商学部）
「働くこととワークルール」
- ⑧ 連合佐賀提供講座（佐賀大学経済学部）
「働くということと労働組合」
- ⑨ 連合宮崎寄付講座（宮崎公立大学）
「雇用・労働リテラシー講座」

⑩ 連合岩手寄付講座（岩手県立大学人文社会科学部）

「現代の諸問題－労働問題とワークルール」

⑪ 連合神奈川寄付講座（神奈川大学法学部）

「働き方と労働組合」

（４）Rengo アカデミー・マスターコースの運営

「Rengo アカデミー・マスターコース」は、労働運動・社会運動を担うリーダーの育成を目的として、前期・後期 2 回の集中合宿を基本に、ゼミナールも行いながら、担当講師の指導のもと修了論文をまとめて 1 年間で修了するプログラムである。マスターコース修了後、受講生はそれぞれの立場で労働運動、社会運動の一翼を担うなど、活躍している。

第 22 回マスターコースの開講にあたっては、これまでの実績（21 回の開講で計 480 名が受講）から得られた経験・反省を踏まえつつ、受講生や会員組織等からの今日的な要望・期待に応えられるよう努める。

また、マスターコース修了後も修了生同士の連携を深められるようなネットワークづくりを支援する。

① 「Rengo アカデミー・第 21 回マスターコース」

第 21 回マスターコースは、5 月の後期研修を終え、7 月初旬に受講生からの修了論文の提出、教務委員長による修了論文の監修を経て、2022 年 9 月 27 日（火）に連合会館にて修了式および修了論文報告会を同日開催する。あわせて、第 21 回マスターコース修了論文集を作成、頒布する。

② 「Rengo アカデミー・第 22 回マスターコース」

第 22 回マスターコースは、2022 年 11 月 13 日（日）より開講する。第 22 回マスターコースの学事日程および講座内容等については、8 月 3 日（水）開催の Rengo アカデミー・マスターコース運営委員会・教務委員会合同会議で検討・確認したのち募集要項を作成し、2022 年 8 月 25 日（木）より受講生募集を開始する。第 22 回においても、受講生出身組織の送り出しやすさと受講生本人の参加しやすさに留意しつつ、運営委員や教務委員、受講生等の意見も踏まえて、合宿期間中のプログラム内容などの効果的な編成に努め、より多くの受講生の参加を促す。

< 第 22 回の予定 >

受講生募集：2022 年 8 月 25 日（木）～10 月 3 日（月）

合宿日程：前期 2022 年 11 月 13 日（日）～18 日（金）

後期 2023 年 5 月 14 日（日）～19 日（金）

（5）専門講座の実施

① 労働法講座（基礎コース）

＊今年度も連合総合政策推進局より受託し実施する。

<第 17 回労働法講座（基礎コース）>

（連合総合政策推進局労働法制局より受託）

開催時期 2022 年 10 月 25 日（火）～10 月 26 日（水）

開催場所 連合会館 3 階 A B 会議室

② 連帯社会連続講座

「連帯社会連続講座」は広く一般に開放した公開講座として、今年度も 9 月～3 月に、毎月 1 回（計 7 回）開講する。

毎回、時宜にかなったテーマについて現場第一線で活躍している外部講師を招聘する。昨年からはオンラインでの開催となったことにより東京近郊以外からの参加が増えており、さらなる充実を図る。

（6）労働運動を担う人材育成のための教育活動の支援

① 会員組織等での人材育成や研修会の講師選定を支援する目的で作成している「教育活動サポートのための講師リスト」について、定期的に掲載情報を更新する。

② さらなる教育活動の支援について、連合の「総合的な人財戦略プログラム」における教育研修体系に基づき、新たに立ち上げられた Rengo ユースターカレッジや JILAF のグローバル人材養成研修などとも連携を図りつつ、相乗効果を発揮できる労働教育の強化・充実をはかる。

（7）「ワークルール検定」への支援・協力

働く上で知っておくべきワークルールについて、広く普及・定着をはかる趣旨に賛同し、一般社団法人「日本ワークルール検定協会」の一員として参画し、「ワークルール検定」の企画・運営に協力する。

（8）セミナー・シンポジウムへの開催協力

会員組織等と連携し、時宜にかなったテーマのセミナー等の開催に協力する。

2. 文化事業

(1) 「第13回連合・ILEC 幸せさがし文化展」募集事業の実施

「連合・ILEC 幸せさがし文化展」は、日頃から創作活動に励んでいる働く仲間とその家族が作品を発表できる場として、連合と共催で2年に1度、絵画・写真・書道・俳句・川柳の5部門で取り組んでいる。

今年度は、「第13回」文化展の実施に向けて、会員組織のメンバーで構成する第1回幸せさがし文化展実行委員会（2022年7月開催予定）において、実施要領を協議・確認した後、作品募集および審査を実施する。入賞作品については、2023年10月の第18回連合定期大会において表彰式を行い、同定期大会会場等で展覧会を開催する。

(2) 「私の提言」募集事業の実施—第19回募集・審査、第20回募集

「私の提言」は、2004年度から連合が継承した「山田精吾顕彰会の論文募集」事業を、連合との共催で「私の提言」募集事業として取り組んでいる。

第19回「私の提言」募集は、「コロナ禍を乗り越え、『働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—』の実現に向けて連合・労働組合が今取り組むべきこと」にテーマを変更し、現在、応募促進のため広報活動に取り組みながら7月25日（月）まで募集をおこなっている。9月7日（水）の第2回提言運営委員会での審査を経て、第88回中央委員会において、入賞者の表彰と提言要旨の発表を行う。

第20回「私の提言」募集については、提言運営委員会にて募集要項を協議・確認し、2023年4月の連合中央執行委員会の確認を経て、募集を開始する。

なお、近年提言の応募数が増加傾向にあることから、応募数が一定数を超えた場合を想定し、予備審査のあり方について具体的な検討を進める。

<第19回「私の提言」募集事業 今後の日程>

募集期間：2022年4月14日（木）～7月25日（月）

提言の審査：2022年9月7日（水）（第2回「私の提言」運営委員会）

入賞提言の発表：2022年9月15日（木）ILEC ホームページにて発表

入賞者表彰および提言要旨の発表：2022年10月6日（木）予定

入賞提言集の発行（ホームページにおいても入賞提言の全文を掲載）

3. 出版・広報事業

(1) 連合新書『ものがたり現代労働運動史 第Ⅲ巻』の刊行

連合新書 No. 1～10『ものがたり戦後労働運動史Ⅰ～Ⅹ』の「続編」である、連合結成以降の労働運動に関する連合新書『ものがたり現代労働運動史』（全4巻予定、第1巻は2018年6月刊行、第2巻は2020年6月刊行、執筆者：高木郁朗日本女子大学名誉教授）の第3巻について、関係者ヒアリングや資料収集等を行った上で、編集作業に取り組み、2022年末に刊行する。

(2) 連合・労働組合必携シリーズ新書の刊行

連合・労働組合必携シリーズである、『壁を壊す 非正規を仲間に』と『地域から変える 地域労働運動への期待』の最新シリーズとして企業再編と労働組合をテーマとして新書を刊行する（執筆者：中村圭介法政大学大学院教授）。

関係者ヒアリングや資料収集等を行った上で、編集作業に取り組み、2022年度内に刊行予定。

(3) 「連帯社会連続講座」の動画配信

「連帯社会連続講座」を録画した動画を、連帯社会研究交流センターのHP上に公開する。

(4) Rengo アカデミー・マスターコース講義録の刊行

第22回マスターコースの講義（もしくは第21回の後期講義）の中から、幅広い活用に資するテーマを選定して講義録を作成し、頒布する。

(5) 「連合寄付講座」講義要録のホームページへの掲載

同志社大学、一橋大学、埼玉大学における連合寄付講座の講義要録を各大学と連携して作成し、大学とILECのホームページにそれぞれ掲載する。

(6) 労働関係書籍の紹介－「本と資料の紹介コーナー」

労働運動や労働組合の分野で読んで欲しい本や経済社会問題の重要な文献について、選定・検討し、その内容を書評としてホームページに掲載する。

なお、定期的な書籍紹介を目指すために新たな枠組みでの書籍紹介の方法を検討する。

(7) ILEC 通信の発行とメールマガジンの配信

ILEC 通信を年 3 回発行する。また、メールマガジンについても、事業活動の紹介や各種募集案内を中心に、随時、配信する。

また Facebook など SNS を利用した広報活動も随時行い、当協会の認知を向上させることとする。

以 上